

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000606		
法人名	社会福祉法人ノマド福祉会		
事業所名	グループホームはる(ほおずき)		
所在地	小樽市赤岩2丁目21-12		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個別ケアを大切に、その人らしい生活が送れるよう医療面等も考えた日々のケアを行っている。状況の変化があると、迅速に対応できるよう連携を密にしている。
 ・スタッフの知識・技術向上のため、学習会、研修、事例発表等多くの学ぶ場をつくっている。
 ・沢山の行事を開き、入居者、家族の方にも参加してもらい、楽しんでもらっている。また、入居者支援においては、他職種で日々連携を密にとり、安心・安全に暮らせるよう対応している。また、定期的なカンファランスを開き、入居者・家族の意向をくみ取り、その時その時に合ったケアが提供できるように、評価、分析し、介護計画作成・実施をスタッフ全員で協力し合っている。
 ・近隣の保育所との交流や町内会の行事に参加、ボランティアの協力等地域との交流を大切にしている。最近ではセンター方式の勉強会を行い理解を深め、入居者個々によって、よりよいケアができるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000606&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年11月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やカンファランスにて、共有、確認をし、そしてお互い理解をし、日々のケアにつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する保育所との交流、ボランティアの導入、町内会の行事への参加や、盆踊りを開催し地域住民の参加を呼びかけるなど積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などの様々な活動で、少しずつ理解を深めていっている。今年度は、札幌ではあるが社会福祉フォーラムを開催し、日々の実践を地域の人々に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業の計画や報告、外部評価及び自己評価の報告、消防訓練への参加などから、様々な意見、アドバイスを頂き、次のサービスにつなげている。会議録は、廊下にて閲覧している。新しく更新した際には、掲示板にて、伝えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や必要時に、適宜連絡している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内及びグループホーム内に委員会や学習会及び研修があり、日々のケアを振り返り、拘束しないケアに一人一人が取り組んでいる。玄関の施錠は、夜間夜勤者が一人の際に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や学習会及び研修にて、虐待について学んでいる。日々入居者の変色や傷の観察を行い、あった際には検証している。また不適切なケアにならないよう職員はお互い、声を掛け合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会にて学び理解に努めているが、活用する機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族とコミュニケーションしやすい雰囲気作りを行い、ゆっくり話を聞き、適切に誠意を持って関わっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、今年度はアンケートにて、意向など聞いている。アンケート等の要望は、適宜運営や日々のケアに活かしている。また、法人内で第三者委員会が設置されている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者である理事長は、1ヶ月に1回、法人内研修にて、職員の意見を聞き、働きやすい職場作りに取り組んでいる。管理者はグループホーム会議や個人面談で把握し、この目標に向け支援している。また重度化に伴い、人員配置など検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成21年度10月から、介護職員処遇改善交付金事業を取り入れ、支給している。正職員試験なども行い、それぞれキャリアが、つんでいけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、経験年数別にて、毎月開催している。また、積極的に施設外の研修に参加できる機会を作っている。また、最近では未経験にての入社が多く、個別のプログラムも考え、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、小樽市グループホーム協議会の役員をしており、他グループホームとの交流はある。また昨年度に引き続き、相互訪問研修に参加し、職員も他事業所との交流になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他事業所からの情報を把握し、本人が分かる言葉や内容で、不安なことに答えることに努め、耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の関係性やニーズを調整しつつ、真のニーズをくみ取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報や面談、今の生活の場を見ながら、専門職としての目で、冷静に判断し、必要性の優先順位を見定め、本人と家族にとって、今必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動や散歩などの日々の暮らしの中で、何でも話せる関係性をつくり、共に暮らしている。人生の先輩として尊敬はわすれない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を常に交換し、気軽に声をかけてもらえるような関係づくりをしている。面会の際には落ち着いて過せるよう環境を整えている。日帰り温泉の行事など一緒に参加してもらい、関係作りを整えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外のなじみの人の来訪は少ない。重度の入居者が多いので、居室に写真や手紙をはり、常に身近に感じられるようにしている。また、地元のお祭りなどに参加している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状況が違う(介護度5の人と介護度1の人が混在している)ため難しさがあるが、ここの性格を把握し、その関係性への橋渡しをしている。そのため、孤立している入居者はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族との関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から確認し、希望に沿うよう支援している。重度の方が多く、困難な場合は、日々の行動をみて、その方の立場に立ち、カンファランスにて、職員皆で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後も、以前からの生活の変化が少ないように、生活歴や暮らし方等を把握できるよう本人や家族に聞いている。今年度は、認知症介護の学習として、センター方式を取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った過し方が、できるよう個別に対応している。また、できること、できないことなど見極め、職員間で共有し、その把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月又は6ヶ月毎に、カンファランスを開催。本人や家族に今後の意向を確認し、他職種等とその方の評価後、適切に検討し、介護計画書に反映させている。また、状況(ターミナルなど)により、家族や主治医にカンファランスに参加してもらい、話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトを導入し、記録はパソコン管理している。その記録や申し送りノート、またカンファランスにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合った対応を、柔軟に、可能な限り、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、隣接する保育所、ボランティアドッグとの交流を行い、社会の一員としての場を広げている。消防署や町内会の協力を得て、避難訓練を行い、安全な生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を、継続してもらっている。受診が困難な場合には、往診にて対応している。医療機関の変更や専門医にかかる際には、家族との話し合いや主治医と相談し、適切に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤している。日々の状況を報告、相談し、適切に対応している。看護師は、医師に連絡し、受診など適切に迅速に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、看護・介助添書を作成し、病状やグループホームでの生活を伝え、入居者が安心して入院生活を送れるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身機能の状態が、変化する都度、家族と主治医と相談(時にはカンファランスに参加してもらう)、グループホームのできる範囲を説明し、今後の方向性を検討している。本人、家族の苦痛が緩和できるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、学習会にて繰り返し学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜それぞれの避難訓練を実施している。訓練には、地域住民、消防署、家族、同法人他部署の職員にも協力を得て行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を忘れず、方言やその方に合わせた言葉にて対応している。言葉遣いには、十分に注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話せるような関係作りをし、声がけの工夫などし、本人の思いを聞けるように努める。言葉で伝えることが困難な方は、表情や行動を観察し、無理強いないよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や他入居者との兼ね合いで、希望に添えなく、職員の都合になっていることも時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや季節、気温に合った服と一緒に選び、ヘアピンやスカーフなどの小物等でもおしゃれを楽しんでもらっている。又外出時は化粧をし髪をセットしたり、普段とは違うおしゃれを楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを聞き、メニューを立てている。好みに合わせ、代替食を用意している。味見、米とぎ、野菜の皮むき、下膳、食器拭き、テーブル拭きなどをそれぞれの力に合わせ、一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今までの食生活を大切に、体重増加や栄養面を考え、提供。嚥下状態の低下時は、キサミ・ミキサー食、トロ剤を使用。水分・食事は全て記録し、水分が進まない方には、好みの飲料やゼリーなどを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。義歯のない方は、口腔用ウェットティッシュにて拭いている。歯磨きは、声がけ、見守り、一部介助、全介助とそれぞれにあわせて、行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を分析、パターンを把握し、声がけや誘導を行い、全員トイレでの排泄をしている。しかし、失禁がある方は、量や時間などでパットのサイズを検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、十六雑穀、オリゴ糖、黒豆茶を提供し、食物繊維を考えたメニューを立てている。身体状況にあわせて、少しでも体を動かせるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	往診や受診日により、曜日を決めているが、本人の希望や体調、「今入りたい」というタイミングを考え、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や疲労度などに合わせて、日中でも臥床できるようにしている。夜間は、習慣に合わせて、照明、寝具、就寝時間など調整しながら、むりなく自然に入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の把握はできていないが、必要時は確認するなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を活かし、ひとり一人に合った楽しみなどの支援ができるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望通りにはできないが、季節ごとの行事や日帰り温泉などについている。また、行きつけの美容室についている方もいる。外出などの際には、ボランティアの協力を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は、お金を所持している人はいない。希望する時は、事務所にてお小遣いを保管しており、用意してもらい買物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の設置、手紙のやり取りをしている人はいない。代わりに、本人の状況を伝えるため、2ヶ月に1回担当職員から家族にお手紙を送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度を毎日確認し、カーテン等で日光を調整し、大きな声や音がしないように配慮している。また、観葉植物をおいたり、季節の花を飾ったり、夏季は畑で野菜や花を育て、収穫を楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓椅子などでそれぞれが居たい場所で、気のあった仲間と過せるよう検討し、工夫している。特に食事の席には配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や好みのも、使い慣れたものを持ってきている人も居るが、全て新しいものをそろえる方もおり、家族に少しずつ、使っていたものを持ってきてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりがあり、玄関以外はバリアフリーになっている。		